

海洋構造変動パターン解析技術開発試験

増田多生・井本栄治・蛇目 勲・楠本輝一
今治美久・萩野鉄男・金田佳久

目 的

本県沿岸の海洋構造は、海面加熱、陸水の供給、黒潮分枝流による外海との熱交換等により複雑に変動している。中でも黒潮分枝流はその消長により本県沿岸の海洋構造を大きく支配している。この黒潮分枝流は漁場形成や沿岸域の生物生産に大きな影響を与えており、その消長を迅速かつ正確に捉えることは非常に重要である。

この事業では ADCP(ドップラー流測計)観測から得られた流向、流速の情報と航走水温や人工衛星水温情報等を統合的に解析し、本県沿岸の海洋構造の変動様式を把握するための技術開発を行うことを目的とする。

なお、この試験は平成9年度海洋構造変動パターン解析技術開発試験事業に基づき実施した。

方 法

使用した ADCP の機種およびデータ収録方法の設定を表1に示す。

観測は毎月の海部沖合海区の定線調査時に行い、出港時から帰港時までのデータ収録を行った。

表1 使用機種およびデータ収録の設定

使用機種	日本無線(株)製 JLN-615
データ平均化時間	8分間
データ収録間隔	1分ごと
収録モード	自動モード
解析プログラム	(社)漁業情報サービスセンター作成 海況情報収集迅速化支援プログラム

結 果

観測で得られた流向・流速データの解析結果を図1~11に示す。ただし、船速が7ノット以下のときのベクトルデータおよびエラーデータと思われる5ノット以上のベクトルデータは削除した。また、流れのベクトルは5分ごと、航走水温は30分ごとのデータを示している。

解析プログラムで得られた流れのベクトルおよび航走水温から、黒潮北縁の位置、海部沿岸海域に波

